

# 図書館だより

Bulletin of the Hokkai-Gakuen University Library



ほんのむし

## 図書館長挨拶

おすすめ図書 経済学部教授 大屋 定晴 / 経営学部准教授 吉川 大介

<特集>選挙権の使い方 まず自分のために 法学部准教授 山本健太郎

この春、図書館がリニューアルしました!

「丁巳志古津日誌」 / 図書館からのお知らせ / 編集後記



vol.38

北海学園大学附属図書館報  
第38巻1号(通巻213号)

2016-4-1

## 大学図書館の意義

新入生の皆さん、ご入学おめでとうござい  
ます。皆さんはこれから四年間、本学で勉学に  
励むこととなりますが、大学での勉学にとっ  
て図書館の有効活用がいかに重要であるか  
を、以下に述べてみたいと思います。

まず「図書館」という名称ですが、これは  
[英]Library/[仏]bibliothèque/[独]  
Bibliothekなどの訳語として定着したもの  
です。ヨーロッパ言語の「ライブラリー」ある  
いは「ビブリオテーク」は、書籍・新聞・雑誌な  
どの文献資料や、フィルム・録音テープ・レコ  
ード・CD・DVDなどの視聴覚資料を収集・  
整理・保管して閲覧に供する施設か、あるいは  
そうした蔵書あるいは収集物を意味していま  
す。以前は前者の意味で「書籍館」という訳語も  
用いられましたが、現在では図書館が一般的  
です。

図書館の起源は文字の発明と同じほど古  
く、それは記録を残す人間の習性に由来しま  
す。すでに前3千年頃のバビロニアに最古の  
図書館がありました。前7世紀のアッシリア  
の図書館には、約2万5千枚の粘土板が収蔵  
されていました。前6世紀のアテナイには、初  
の公共図書館が誕生しました。前4世紀のプ  
ラトンやアリストテレスがつくった学校に  
も、学術図書館が付設されていました。しかし  
古代において最も際立っていたのは、プトレ  
マイオス王朝エジプトのアレクサンドリア図  
書館です。ここには、ナイル川のほとりに自生  
する葦で作ったパピルス製の卷子本が数千巻  
もあったと伝えられています。プトレマイオ  
ス王朝の二人の王(ソテルとフィラデルフォ

ス)は、アレクサンドリアにムーセイオン(「ミ  
ューズの神殿」の意、Museumの語源)と王立  
図書館を建造し、広く地中海世界全般から学  
者を招聘しました。ユークリッド、アルキメデ  
ス、エラトステネス、ストラボン、ガレノスと  
いった著名な学者は、すべてこの都市を活動  
の拠点としていました。王家は学者たちが膨  
大な蔵書を用いて仕事ができるように配慮し  
たので、アレクサンドリアは古代世界随一の  
学術都市へと発展しました。一方、小アジアの  
ペルガモン(現在のトルコのベルガマ)にあっ  
た図書館は、羊皮紙の発明によって後世に名  
を残しました。羊皮紙は丈夫で再利用も可能  
だったため、グーテンベルクによる活版印刷  
術の発明に至るまで、千年以上にわたって書  
籍の主たる原材料となりました。

このように、人間の知の営みと図書館は切  
っても切り離せない関係にあります。とり  
わけ大学での学びにとって図書館は必須なも  
のです。高校までの勉学には図書館は必ずし  
も不可欠ではありませんが、大学レベルの勉  
学は図書館なしには不可能です。なぜなら、大  
学での勉学は自由研究という性格をもってお  
り、既存の知識の批判検証と未知の真理の探  
究を旨とするからです。要するに、知の宝庫な  
らびに情報センターとしての図書館を有効的  
に活用して、はじめて大学での学習も研究も  
有意義な仕方であり立つのです。

さて、わが北海学園大学附属図書館は、19  
87年4月、本学園の創立百周年記念事業の  
一環として建設されました。地下1階地上6  
階の建物のうち、4階までの全館が図書館と

して利用されています(5階は主に教員研究  
室、6階は国際会議場です)。道内の私立大学  
図書館としては最多の約97万冊の蔵書数を誇  
り、質の高い教育・研究を支える総合図書館と  
して機能しています。今年度から新たにラー  
ニング・コモンズが設けられ、1階はラウンジ  
(Lounge)、2階はワーク・エリア(Work  
Area)、3階はサイレント・エリア(Silent  
Study Area)、4階はアクティブ・エリア  
(Active Learning Area)となつて、学生が  
主体的に学び、課題を解決するための学習環  
境が整備されました。

蔵書検索(OPAC)は、公開検索コーナ  
ーの端末機によつても、学外からのインターネ  
ットによつても可能です。PCブースでは、電  
子ジャーナルやデータベースなどが利用でき  
ます。AVブースでは、BDやDVDなどの視  
聴ができます。レファレンス・サービス、カウ  
ンター・サービスでは、各種データベースの検  
索による情報提供や図書館の利用案内、他機  
関の紹介など、幅広く利用者の利便をはかっ  
ています。学内に所蔵していない文献は、他の  
図書館よりコピーまたは、相互貸借によつて  
入手することができます。

新入生のみなさん、図書館を有効的に活用  
して意義深い大学生活を過ごしましょう。



# おすすめ図書

Recommended Books

## 社会認識の歩み

内田義彦著(岩波新書・1971)

経済学部 教授  
おおや きた はる 晴  
大屋 定晴

大学で「こんなことを学んでいるのはなぜだろう」と思うことはありませんか？ 社会科学(経済学や政治学など)を中心に学ぶ大学に入ればかりの私も、ふとそう感じたときがあります。そんなときに読んだのが、この本でした。

著者はまず、社会を知ろうとする意欲をなくさせる要因が、日本社会にあることを指摘します。日本社会では一人一人が集団に流されるばかりで、自覚をもって集団をつくらないこと。学校で教えている内容が、人々の日常生活と切り離されがちであること。西欧から輸入された近代的学問用語が、日本人の日常語から切り離されていること(現在教員である私にとっても耳の痛い話)。社会を学ぶ前提として、これらの要因を許している日本社会そのものの批判が必要だと、著者は主張します。

そして問います。一人一人が大人になる中で、社会を知る(認識する)ことが必要になるのはなぜなのか？ 社会を認識する学としての社会科学の歴史は、一人一人の個人的成長とどのように重なりあうのか？ として社会科学を学ぶ手はじめとして、本を読むとはどういうことなのか？ これらに答えながら、マキャヴェリやアダム・スミスなどの西欧社会科学体系が紹介されていきます。

話し言葉で書かれた平易な一冊です。しかし、本書には日本への批判的まなざしと、社会を知るといふ行為の意義が論じられています。学生時代の私も、自分が生まれる前に書かれたこの本を読んで、社会科学を学ぶ学生になった意味を自問させられました。いま大学で学んでいる皆さんも是非一読してみてください。

## ヒラノ教授の論文必勝法

教科書が教えてくれない裏事情

今野浩著(中公新書ラクレ・2013)

経営学部 准教授  
よし かわ だい すけ 大川 大介

「講義以外のときってなにしてるんです？」

ときおりこんな質問を受けます。たしかに学生の方たちにとって大学教員は週に教えるほどしか仕事、講義・ゼミ)をしていないように見えるかもしれませんが。本書はある意味ではこうした疑問に答えるものになっています。

一般に日本の大学教員の仕事は研究、教育、校内業務の三本柱と云われますが本書はこのうち特に研究に焦点を当てたものとなっています。ところで、大学教員が研究業績を積み上げるには論文を書き、これができるだけクオリティの高い雑誌に載せる。そうした実績をもとに外部から研究費を獲得する。獲得した研究費をもとにさらに研究し論文にまとめる、といったサイクルを繰り返すばかりありません。

しかし、クオリティの高い雑誌に論文を載せるには「査読」と呼ばれる審査に通る必要があります。クオリティが高い雑誌ほど厳しい査読が課せられます。さらに、同様の審査は大学外に研究費を申請する際にも行われることもあり、研究業績を積み上げるには大変な作業を要します。本書はどうすれば査読を通すことができるか、そして外部から研究費を獲得できるか、といった話題をユーモラスに記述したものです。

さらに近年では、大学と大学教員の環境も厳しくなりつつあり、多くの大学教員が研究時間を割くのに苦労している現状があります。こうした状況の中でどのようにして研究時間を確保していくのかといった話にも触れられるなど、まさに大学教員の日常を筆者は生き生きと描き出します。将来、大学教員を目指す人はもちろん、大学教員が普段どのような仕事をしているのかに興味がある人にはお勧めの一冊です。

ただし、上手な論文・レポートの作成法を書いた本ではないので、講義やゼミでの勉強に役立つようなことは一切ありません。

# まず自分のために



法学部准教授 山本健太郎

**新** 入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。在学生のみなさん、ご進級おめでとうございます。

特に新入生のみなさんは、新しい生活の始まりを、大きな期待と不安のなかで迎えられていることと思います。サークルはどうしようか、異性も含めた新しい友だちはちゃんとするだろうか、講義は何をとればよいのか、バイトは何を選ぶか…。就職活動を除けば、大学生が精神的にも肉体的にも最も忙しいのがこの時期かもしれません。

そんな何かと忙しい季節に、このようなことを書くのはやや気がひけるのですが、在学生を含めた皆さんには、ある重要な機会が目前に迫っています。既にテレビやインターネット、あるいは高校や大学の授業などで知っている方も多いでしょうが、今年の7月の参議院選挙から、選挙権年齢が18歳に引き下げられます。これまでは20歳でしたが、18歳への引き下げによって、日本国籍を有する学生のみなさんは、すべてが有権者となるのです。

選挙権年齢の引き下げは、実に70年ぶりに

実施されることもあって、世間的にもかなり注目されています。その多くが、選挙権年齢の引き下げによって、若いみなさんの政治や選挙への関心が高まるのか、あるいは高めるためには何が必要か、という視点で取り上げられているといっても過言ではないでしょう。その根底にあるのは、若いみなさんの政治への関心が低い、ということへの問題意識です。

確かに、若いみなさんの政治への関心は、決して高いとはいえないところがあります。選挙の投票率、というのは最もわかりやすく政治への関心の高さを示す指標のひとつですが、直近の2014年12月におこなわれた衆議院選挙では、20歳代の投票率は32・58%。3人に1人弱しか投票に行っていないことになりました。世代別に見ていくと、最も投票率が高いのは60歳代で、その数字は68・28%と、こちらは3人に2人強の人が投票している計算ですから、若いみなさんの関心が他に比べて低いことは否定できません(ちなみに、全体の投票率は52・66%でした)。

と、ここまでの話は、多くの方が既にどこかで似たような話を聞いていると思います。若

者の政治への関心が低下している→大事なことなのにヤバい→投票に行くべし!というわかりやすく教育的なストーリーは、既に聞き飽きた感すらあるかもしれません。断つておきますが、この原稿でまた同じ話をするつもりはないので、安心してお付き合いください。

話はガラッと(というほどでもないか…)変わりますが、今年はめったにない「選挙イヤー」になる可能性があります。7月に参議院選挙がある以外にも、衆議院の解散があるのでないかと噂されており、場合によっては衆議院選挙が参議院選挙と同じ日に実施されるという話もあります(同日選は与党のなかに反対意見があるので、可能性は低いのですが)。ひょっとすると、もつと早く、この冊子が配られる頃には解散が行われているかもしれない、なんて話もあります。その場合、残念ながら18歳、19歳のみなさんに投票権はなくなってしまうのですが、参院選以降に衆院選がセットされた場合、みなさんは早速2つの選挙に有権者として参加することになります。

それだけではありません。海の向こうに目

を転じてみれば、11月にはアメリカ合衆国で大統領選挙があります。もし衆院選が行われるとなると、参院選、アメリカ大統領選の3つの選挙が一度に行われることになりませんが、これは非常に稀なことです。過去、1980年に一度あっただけ、史上2度目の「選挙イヤー」になるかもしれないのです。

だからどうした、という話に思われるかもしれませんが、そうした記念すべき(？)年に選挙権年齢が引き下げられ、18歳、19歳も有権者になったというのも何かの縁です。事実、これらの選挙はいずれも、若いみなさんの投票行動次第で、結果が大きく左右される可能性があります。

嘘つけ、と思うかもしれませんが、既に前哨戦が行われているアメリカ大統領選をみれば、それは明らかです。アメリカは二大政党制の国で、民主党と共和党という2つの党があります。通常、大統領はこの2つの政党からそれぞれ候補が選ばれて、その2人のどちらかに決まるのですが、11月に大統領を決める選挙(本選挙といいますが)が行われる前に、長い長いプロセスがあります。まず、それぞれの政党から出す大統領候補を決める段階で、候補になりたい人は予備選挙と呼ばれる前哨戦を勝ち抜かなければなりません。これが2月から7月まで続いて、晴れて大統領候補になったら、今度はもう一つの党の大統領候補との本選挙が始まり、11月の投票日まで続くのです。

今は予備選挙が行われているのですが、特に民主党(オバマ大統領も民主党です)の予備選では、若者の動向が選挙戦に大きな影響を与

えています。ここでは、本命視されてきたヒラリー・クリントン氏が、予想外の苦戦を強いられています。対抗馬となったのが、これまで異端視されてきたバーニー・サンダース氏。サンダース氏は、アメリカで社会問題となっている学生ローンについて改革を訴えて、若者の支持を集めています。アメリカでは、私立大学が多く、日本よりもかなり高額な学費が必要になる場合もあり(5倍程度のケースもあります)、少なくない学生が金融機関などからローンを借りて学費を賄っているという現実があります。数百万にもおよぶローンを4年間組めば、1千万単位の借金を背負ってしまうこともありうるわけです。こうした現実に対し、一石を投じようとしたのがサンダース氏です。学費負担の大幅な軽減を訴えて、若者の熱狂的な支持を集めたのです。結果、大統領候補争いの序盤戦で、クリントン氏は中年の、サンダース氏は若者の支持を集めるという図式になり、サンダース氏が健闘しているのです。まさに若者が動くことで、絶対本命のクリントン氏が泡を食う形になりました。トータルとしてはクリントン氏の優位は動かないようですが、クリントン氏もこうした民主党支持の若者の動きを無視することはできないので(民主党の大統領候補になることが目的でなく、大統領になるにはその後の本選挙で共和党の候補に勝たなければならぬからです)、最後はサンダース氏の主張を一部取り入れるかもしれません。

.....  
翻って日本はどうでしょうか。みなさんもよくご存知のように、日本でも、奨学金という

名の借金という問題は、程度の差こそあれ存在しています。その意味では、みなさんにとっても現在進行形の重要な問題でしょう。しかし今のところ、サンダース氏のような主張を大々的に展開し、争点化に成功している政党や候補はいないので、この問題がアメリカのようにクローズアップされることにはなっていません。

なーんだ、とガツカリしたでしょうか。ガツカリするのは少し早いです。大事なのは、これだからです。奨学金問題に代表されるように、若者にとつての重要な問題を政治家が重視するかどうかは、若者のアクションにかかっています。「それが票になる」と思えば、条件反射的に動き始めるのが政治家というものです。今表立って取り上げられていないなら、それを取り上げることがメリットになると政治家に思わせることが大事なのです。

とはいえ、ひとりではできないことに限界があるというの紛れもない現実です。周囲の同世代と連携して行動すれば違うかもしれませんが、それはかなり面倒で大変です。では、どうすればいいか。回り道のようにですが、結局は投票することが最も手軽で、手っ取り早い方法です。選挙権年齢の引き下げで、有権者全体に占める若者全体のボリュームが増えた今だからこそ、若者の声で結果に影響が出たとなれば、次の選挙からの政治家の行動が変わってきます。逆にいえば、もしこのタイミングで行われる選挙で若者の声の結果に影響しないとなれば、次からは政治家にとって若者への配慮は相対的におこなわれにくくなると、

✓ 予想されるのです。

みなさんの周りにいる同世代の人々の顔を思い浮かべてみてください。顔も性格も、実に多様な人がいるものと思います。でも、たとえば奨学金制度のような政策は、同世代であれば多くが関心を持っていて、しかもその政策への賛否なども、ある程度似通ってきます。奨学金が一層充実して自分にも恩恵があるとすれば、喜ばない大学生はほとんどいないでしょう。一人ひとりが選挙の結果に与えられる影響は確かに微々たるものですが、自分が動かなければ、自分以外の同世代の人も動きません。逆に、自分が動けば、自分以外の同世代も動いて、大きな影響を結果に与えられるかもしれない。だから、まずは自分が動くことが手っ取り早いのです。

アベノミクスへの評価とか、消費税増税の是非、安全保障法制への賛否といった重要な問題に対し、ご自身の姿勢を示されるのもよいでしょう。しかし、こうした問題が難しく感じられて、投票に二の足を踏んでしまう人も少なくないと思います。テレビや新聞で大きく取り上げられているからといって、こうした難しい問題に興味がない、あるいはよくわからない人は、投票に行くべきでないかという、それは全く違います。奨学金の問題でも、ブラックバイト対策でも、ご自身に身近な問題を最優先に考えて投票することも、全くもって正しい態度です。要は、自分にとって大事だと思う問題を決めて、それについての各政党や候補者の主張を見比べたうえで、投票に行けばよいのです。各政党や候補者の主要

な政策についての主張は、選挙が近づいてくれば新聞などでわかりやすくまとめられているので、それを見ればわかります。

実は、アメリカのサンダース氏の健闘のように、若者の行動が選挙の結果に影響を与えたと考えられる選挙が、日本でも最近、しかも2回ありました。2005年と2009年の衆院選です。2005年は郵政解散と呼ばれ、小泉純一郎内閣のもとで、郵政民営化の是非を争点にした選挙でした。2009年は、自民党から民主党への政権交代が起こった選挙です。この2回の選挙では、いずれも多くの若者が投票所に足を運んだ結果、全体の投票率が70%近くまで跳ね上がりました。これが、2005年には自民党が、2009年には民主党が地滑りのように圧勝する原動力のひとつとなったのです(2005年については、菅原琢(2009)『世論の曲解』光文社新書、参照)。これら2回の選挙は、争点がはっきりしていて、しかも内容が比較的わかりやすかったという特徴があり、若者も投票所に足を運びやすかったのではないかと推測されます。

今年おこなわれる1つ(もしくは2つ)の選挙がそうなるかはわかりません。しかし、自分ひとりでは変えられない選挙結果も、同世代が一齐に動くことで変わります。普段投票に行く人が少ない世代だからこそ、投票に行けば結果に影響を与える度合いも大きくなるのです。

「投票のすゝめ」のようなベタな話ではないから最後まで付き合えと言われたから読んだ

のに、裏切られた!と憤っている方もいるかもしれません。実は私は、投票に行かない人がいる今の世の中が、まるっきり嫌いではありません。興味がない、行きたくないという人が行かないで済むというのも、自由な社会の現れなので、ある意味では望ましいとすら言えるからです。また、面倒なことを他人任せにするのは、若者に限りません。でも、「面倒なこと」のなかに、自分にとって切実な問題が含まれているとなると、どうでしょうか。

アメリカでサンダース氏を押し上げている若者は、日本で若者の政治意識の低さに悩むオトナたちから見れば、政治意識が高く優れている、それに引き換え日本の若者は…、ということになるでしょう。しかし、考えてみれば、アメリカの若者を突き動かしているのは、「自分の重すぎる負担をなんとかしたい」という極めて利己的な動機付けにすぎないともいえます。そう考えると、面倒だから投票しない、という利己的な若者と、大した違いはないように思えてきます。

ゆえに(？)、投票の極意は、何よりもまず「自分(たち)のために」です。カッコつける必要も難しく考える必要もありません。オトナや先生やマスメディアに気兼ねする必要もありません。どの党や候補が勝てば自分(たち)にとって得か、という利己的な投票こそ、自然発生的に多くの人とのつながりを生み出し、真に政治を動かすのです。

# この春、 図書館が リニューアル しました！

新しくなった図書館（ラーニング・commons）は、学生が主体的に学び、課題を解決するための学習環境を提供します。従来の個人情報に加え、グループでの情報収集やデイスカッション、プレゼンテーションなどが図書館で行えるようになりました。

## 1F Lounge

### ラウンジ



利用時間	月～土／9:00～22:30
設備	無線LAN配備

自由に対話できる開放的な空間です。備え付けの新聞を読みながら、待ち合わせや休憩場所として気軽に利用することができます。

## 2F Work Area

### ワーク・エリア



利用時間	月～土／9:00～22:00
貸出物品	ホワイトボード、マーカー等
設備	無線LAN配備

図書館資料や館内パソコン等を用いて情報収集が行える空間です。多人数で利用できる大型平机を配置しているため、学生同士でデイスカッションも行えます。

## 3F Silent Study Area

### サイレント・エリア



利用時間	月～土／9:00～22:00
------	----------------

個人学習のための空間です。学習環境維持のため、パソコンや電卓といった電子機器類の使用など、音の発生する行為はできません。

## 4F Active Learning Area

### アクティブ・エリア



利用時間	月～金／9:30～19:30 土・長期休業期間／9:30～16:30
------	---------------------------------------

貸出物品  
タブレット・ノートパソコン、録画機材、ホワイトボード、マーカー、レーザーポインター、スライドページ送りリモコン、延長コード等

設備	無線LAN配備
----	---------

グループ学習のための空間で、2名以上の利用を原則とします。プロジェクト設備のあるAL1及びAL2は申請対象とし、GS1及びGS2は申請せず自由に利用できます。また、ゼミ等のグループでの貸し切りを想定し、AL2のみ予約可能です。施設の利用申請等は「サポートデスク」で受け付けます。

※AL=Active Learning Room  
※GS=Group Study Room

※4Fは卒業生及び学外者は利用不可

# 「丁巳志古津日誌」

松浦武士郎 著

昨年本学図書館が、松浦武士郎の真筆（肉筆）である「丁巳志古津日誌」（1857年）を購入しました。

探検家、またジャーナリストでもある松浦武士郎（1818年～1888年）が志古津（千歳川～支笏湖口～樽前）について記した本です。文章だけではなく、絵も豊富に描かれており、大変貴重な書物です。

現在、図書館2階に展示されていますので、ぜひご覧下さい。

また、「丁巳志古津日誌」の現代語訳は、図書館閉架に所蔵されている「丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌 下」（資料番号0398419）（247頁）に記載されています。



## 編集後記



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。これから学生生活が始まりますが、高校と違うのは、自由だ、ということです。授業を欠席しても、都度、大学から保護者に連絡などありません。また、担任の教員がいるわけでもないで、日常的に世話をしてくれる人もいません。まあ、あれこれとコウルサイことを言われることもない、と。つまり、すべて自主的に行動しなければいけないのです。勉学についても然り、というか、そもそも大学は学びに来る場所ですから、当然自学自習が発生するわけです。

さて、そんな時の心強い味方が、図書館です。図書館は春から新装開館しました。詳細は今号の6ページと入学式の時に配布した（学内の配布棚にもあります）ネコさんの「図書館案内」を読んでください。勉強だけではなく、雑誌を読んだり映画を見たりすることもできます。ネコさんも言っていますが、せっかく大学に入学してウン百万円の授業料等を払っているんだから、大学の施設はドンドン利用しないと勿体ないですよ。というわけで、新入生・在学生の皆さん、充実した学生生活を送ってください！

## 図書館からのお知らせ

日曜・祝日以外の閉館日

入学式：平成28年4月2日（土）

創立記念日：平成28年5月16日（月）

皆さまからの、本冊子に対するご感想を下記のアドレス宛にお寄せください。

今後の内容充実のために活用させていただきます。

なお、お寄せいただいたご意見・ご感想についての回答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

▶▶▶ [lib@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp](mailto:lib@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp)